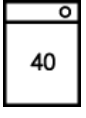
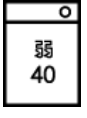












繊維製品の取り扱いによる表示記号



↓これだけのコメントで良いか

・ 現行 JIS から単純に記号の置き換えはできません

現行 (JIS L0217)		新規格 (JIS L 0001) 原案			
1. 洗い方 (水洗い) の記号		1. 洗濯処理の記号			
		<p>◆洗濯機も手洗いも桶の形に統一</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記号の中の数字は洗濯液の上限温度 (°C) 手洗いは 40°C ・ アンダーバーは弱い処理、2本は非常に弱い処理の付加記号 ・・・『マイナスは弱い!』 ・ 中性洗剤使用やネット使用は記号とは別に、付記用語にて指示 			
101		190	 液温は 95°Cを限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる。		
(該当なし)		170	 液温は 70°Cを限度とし、洗濯機で通常の洗濯処理ができる。		
102		160	161	160 : 60°Cを限度とし、通常の洗濯処理 161 : 60°Cを限度とし、弱い洗濯処理 (注 : 60°Cから 30°Cまでは表現を一部省略)	
(該当なし)		150	151	150 : 50°Cを限度とし、通常の洗濯処理 151 : 50°Cを限度とし、弱い洗濯処理	
103		140	141	142	140 : 40°Cを限度、通常の洗濯処理 141 : 40°Cを限度、弱い洗濯処理 142 : 40°Cを限度、非常に弱い洗濯処理
104					
105		130	131	132	130 : 30°Cを限度、通常の洗濯処理 131 : 30°Cを限度、弱い洗濯処理 132 : 30°Cを限度、非常に弱い洗濯処理
106		110	 液温は、40°Cを限度とし、手洗いによる洗濯処理ができる。		


107		100	洗濯処理はできない。
			

現行	新規格 (JIS L 0001) 原案		
2. 塩素漂白の可否の記号	2. 漂白処理の記号		
	【基本記号】  <ul style="list-style-type: none"> ◆三角形で表す <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形のみは塩素系、酸素系漂白の両方ができる ・ 斜線 2 本は塩素系漂白ができない。酸素系漂白はできる ・ 「×」は漂白処理はできない 		
201	220	210	220 : 塩素系及び酸素系漂白剤による漂白処理ができる。 210 : 酸素系漂白剤による漂白処理ができるが、塩素系漂白剤による漂白処理はできない。
			
202	200	漂白処理はできない。	
			

3. 絞り方の記号	
501	502
	

3. 絞り方の記号
(該当なし)

4. 干し方の記号

4. 乾燥処理の記号
<ul style="list-style-type: none"> ◆正方形で表す ◆正方形の内側に○はタンブル乾燥 <ul style="list-style-type: none"> ・ ○の中の「●●」は高温、「●」は低温の付加記号 <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 『数が多い方が高い』 ・ ×はタンブル乾燥できない ◆正方形の内側にたて線、よこ線は自然乾燥 <ul style="list-style-type: none"> ・ たて線はつり干し、よこ線は平干し、2本線はぬれ干し <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 『線が多いと水分で重い!』 ・ 角の斜線は陰干し <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 『/ひさしで日陰を!』


(タンブル乾燥)
(該当なし)




(タンブル乾燥処理) *家庭でのタンブル乾燥のみの記号			
320	310	300	320 : タンブル乾燥が可能、高温乾燥 : 排気温度の上限は最高 80℃ 310 : タンブル乾燥が可能、低温乾燥 : 排気温度の上限は最高 60℃ 300 : タンブル乾燥禁止

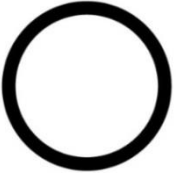




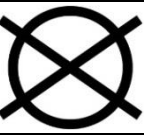




現行	
(干し方)	
601	602
603	604

新規格 (JIS L 0001) 原案				
(自然乾燥処理)				
440	445	430	435	440 : 脱水後、つり干し乾燥 がよい 445 : 脱水後、日陰での吊干し 乾燥がよい 430 : 濡れ吊干し乾燥がよい 435 : 日陰での濡れ吊干し 乾燥がよい
420	425	410	415	420 : 脱水後、平干し乾燥 がよい 425 : 脱水後、日陰の平干し 乾燥がよい 410 : 濡れ平干し乾燥がよい 415 : 日陰の濡れ平干し 乾燥がよい

5. アイロンの 掛け方の記号	
301	302
303	
304	

5. アイロン仕上げ処理の記号			
【基本記号】 ◆アイロンの形で表す ・「●●●」は高温、「●●」は中温、「●」は低温の付加記号 『数が多い方が高い!』 ・「×」はアイロン仕上げ処理はできない ・当て布の記号はなし 記号とは別に付記用語で指示			
530	520	510	アイロン仕上げ処理ができる。 530 : 底面温度 200℃を限度 520 : 底面温度 150℃を限度 510 : 底面温度 110℃を限度として スチームなしでアイロン仕上げ
500	アイロン仕上げ処理はできない。		

現行
6. ドライクリーニングの記号
(ドライクリーニング)
401

402

403

(ウエットクリーニング)
(該当なし)

新規格 (JIS L 0001) 原案			
6. 商業クリーニング処理の記号			
◆円で表す			
・内側のアルファベットで処理の種類を示す			
「P」はパークロロエチレン溶剤・石油系溶剤両方可能			
「F」は石油系溶剤のみ可能			
「W」はウエットクリーニング (水洗い)			
・アンダーバーは弱い処理、2本は非常に弱い処理の付加記号			
・・・『マイナスは弱い!』			
・「×」は処理できない			
【基本記号】			
			
(ドライクリーニング処理の記号)			
620	621	パークロロエチレン及び記号O,Fの欄に規定の溶剤でのドライクリーニング処理ができる。 620: 通常の処理 621: 弱い処理	
			
610	611	石油系溶剤 (蒸留温度 150°C~210°C、引火点 38°C~) でのドライクリーニング処理ができる。 610: 通常の処理 611: 弱い処理	
			
600	 ドライクリーニング処理ができない。		
(ウエットクリーニング処理の記号)			
710	711	712	ウエットクリーニング処理ができる。 710: 通常の処理 711: 弱い処理 712: 非常に弱い処理
			
700	 ウエットクリーニング処理はできない。		

問い合わせ先 必要??

カケンの名称をどこかに入れる?

織技協作成資料に体裁が似ているので了承必要?